

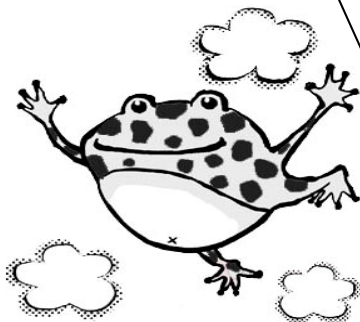
かえる便り 28年25号

平成28年11月24日

晩秋の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

『勉強は決して嫌いではないけれど、今は勉強するときではないから、今はこの道から降りる。いつか必ず戻ってくるのでその時まで見守っていてほしい』これは、ある少年が小学校5年生ごろに母親にお願いした話です。彼は小学生にして学校教育に疑問を持ち、小学校を中退し自分で資金を調達して発明家への道を歩きました。彼曰く、“食事より発明の回数が多い”、“平均睡眠時間は2～4時間”“アイデアは無限に浮かんでくる”、彼にとって 本は“読むものではなく、見るもの”だそうです。穴が開くくらい熱心に見続けていたそうですよ!! すごい集中力!!

サッカーでも同じですね。“よく観る”ことから違いや改善すべきことが分かるのではないのでしょうか?



以前指導していた学校で、二度前十字靭帯を切った部員がいました。3年の9月に復帰したので、一度も公式戦(リーグ戦含む)に出たことがありません。リーグ戦の最終節で出そうと思い、密かに保護者と連絡を取り、許可をもらい20分間出場させたことがあります。彼は最初で最後の試合を楽しんでくれていました。誰よりも努力をしている姿を皆が知っていたので、全員が拍手していました。努力することの尊さを教えてくれた生徒です。感謝!!

3年生がそれぞれの思いを述べ、反省を書いてくれました。彼らが 今の心意気で1年時から練習に取り組んでいたら優勝したと思いますよ。決勝に毎年のように出るチームや全国大会の常連校の部員の反省は、同じ後悔でも内容やレベルが違いませんか? 勝つチームの選手は、自分に妥協する人が少ないと思います。特に、メンバー入りを競うレベルの選手は、中途半端な取り組みをしていたら絶対に
出られないことをよく理解しています。また、トップ選手の技量の高さ、練習量の
凄さを知っているから真剣にやらざるを得ないので。

今回、今までになく力を出し切り、本当によくやったと言える選手が数名いました。彼らの頑張りは称えたいと思います。持っている能力を最大限に発揮するよう指導できなかった自分の指導力不足を反省しています。反省を今後、生かしたい!!